

桜島における地磁気観測*

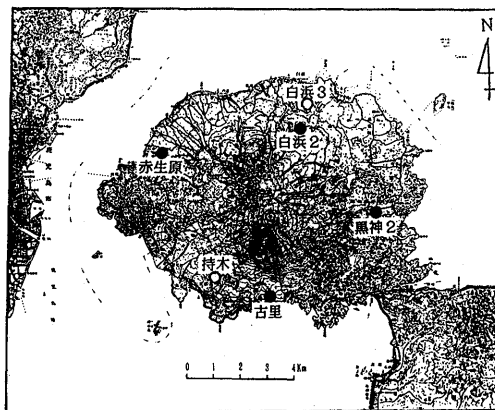
(1978年5月～1992年8月)

気象庁地磁気観測所

地磁気観測所（鹿屋）では、1978年5月から桜島の島内とその周辺で地磁気全磁力連続観測および全磁力繰り返し観測を行っている。これらの観測のうち、1992年4月までの観測結果については既に報告している¹⁾。今回は、1992年8月までの結果について報告する。

第1図に桜島における地磁気観測点の配置を示す。第2図は鹿屋を基準とした白浜2、黒神2、赤生原、古里の各観測点における地磁気全磁力の経年変化で、1987年頃から増加傾向にある白浜2観測点と黒神2観測点、減少傾向にある古里観測点の各傾向は、依然として続いている。古里の1986年のデータは、全体のトレンドから見ると少しバラツキが大きいのが、この時には観測点の近くで土石流災害に伴う河川工事が行われており、それによる人工擾乱が含まれているためと思われる。

第3図には、1988年8月から1992年8月までの持木と白浜3の連続観測の結果を示す。上から鹿屋の地磁気全磁力夜間値（00～02時）と持木、白浜3、鹿屋の各観測点の相互差および爆発回数（JMAによる）である。白浜3では、全磁力に異常な変化は特に見られない。持木については、観測環境悪化のため1988年4月に全磁力連続観測点を移設したが、それ以降は異常な変化は観測されていない。

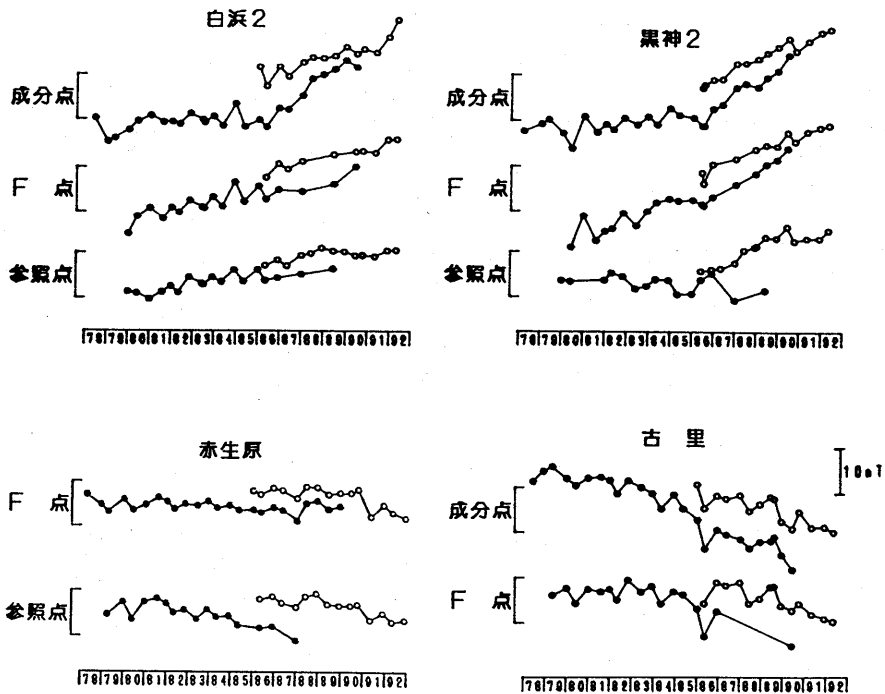


第1図 桜島島内での地磁気観測点の分布

- 全磁力連続観測点
- 全磁力繰り返し観測点

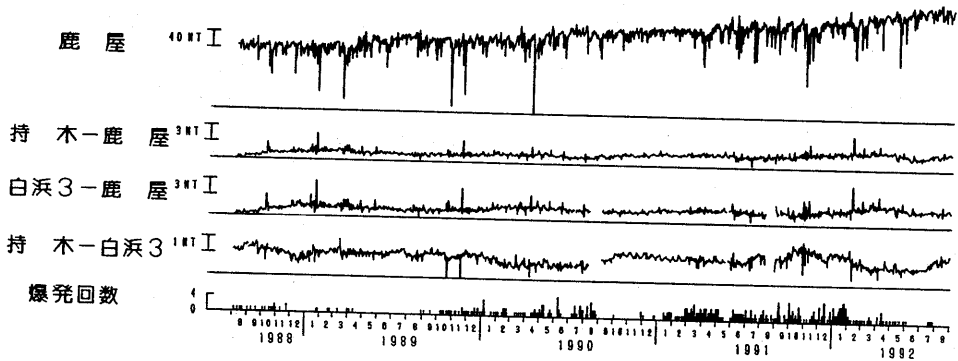
Fig. 1 The distribution of observation points.

* Received 5 Jan., 1993



第2図 鹿屋を基準とした地磁気全磁力の経年変化
測定高 (●—● 1.5m ○—○ 3.5m)

Fig. 2 Secular variation in geomagnetic total force intensity relative to Kanoya.



第3図 地磁気全磁力夜間値の相互差 (持木 — 鹿屋, 白浜3 — 鹿屋, 持木 — 白浜3) の日平均値変化 (1988年4月~1992年8月)

Fig. 3 Secular variation in daily mean of differences in night time geomagnetic total force intensity between Mochiki and Kanoya.

Shirahama No. 3 and Kanoya, Mochiki and

Shirahama No. 3

(April 1988~August 1992).

参 考 文 献

- 1) 気象庁地磁気観測所 (1992) : 桜島における地磁気観測 (0978年5月～1992年4月), 噴火予知連会報, 53, 94-96